

-----  
12番 前田正勝議員  
-----

議長（中西 康雄君）

通告順8番、前田正勝議員の発言を許可します。

-----  
12番（前田 正勝君）

12番 前田正勝でございます。

今般、秋葉原の事件、岩手・宮城内陸地震で、予期しない突然の悲劇に遭われ、人間の手によって、自然の大きな手によってそれぞれ尊い命を奪われ、無念にも亡くなられた方々に対し、心よりご冥福をお祈りいたします。

それでは質問に入ります。本日は2点伺います。

私この1つ目なんですが、この質問はさきほど同僚議員からかなり突っ込んだ話がありましたので、はしょって質問させていただきたいと思います。

まず、大台町簡易水道基本計画についてですが、この事業に関して昨日のこれもまた同僚議員の質問に、町長はやっていかなければならない、もうこれ以上守りはできないよと現状を踏まえ答弁されました。このことも踏まえて伺います。

簡易水道については旧大台町地域の安定した水源確保と、安心・安全な水道水の供給を図るため、大台町簡易水道基本計画を基に事業を進められていくと理解をしております。20年3月に出された大台町簡易水道統合計画検討書を踏まえ、多大な時間と事業費を必要とする大事業を行っていくと考えていますが、この事業の概略年次計画表には、事業費についても明記されていますが、改めて町の事業費財源裏付けとか県の負担金、管理費、南勢水道からの受水費はどのぐらいになるのか、またさきほどからいろいろ答弁の中にもありましたが、質問の中にと答弁の中にもありましたが、今後さまざまな問題点が発生する可能性があると思いますが、現況を伺いたいと思います。

-----  
議長（中西 康雄君）

尾上町長。

-----

町長（尾上 武義君）

それでは簡易水道の基本計画について、お答えをいたします。

昨日は中谷議員から、本日は直江議員から縷々ご質問をちょうだいをいたしまして、お答えをさせていただきます。その要旨につきましては、現在案として持っております計画案 88 億円ほどかかる計画になっておるわけなんです、これを一から見直しですね、やり直していく必要があるというふうに考えております。

したがって、今のところ 88 億円というような数字が出てきておりますけども、これにつきましてどの部分が消えていくのか、さきほどから議論をさせていただいて、いろんな事業内容の検討なり、あるいは起債の借り入れなり、それに伴う償還計画、そしてまた他の事業への影響、また水道料金どれぐらいはね返っていくのか、そういったようなことも精査しながらですね、やっていかなくならない。とりわけ水道料金への影響というような極力抑えていく、そういう努力を行っていかならんのかなというところを思っているところでございます。

何にしましても水源に乏しいという地域でもございますので、その水源がどこにあるか、1 つには南勢水道ということにはなろうかと思いますが、三瀬谷地区につきましてももう少し精査を加えながら、本当に水源がないのかどうかということも踏まえて対応いたしてまいりたいというふうに思っております。

そういうことで、さきほど直江議員にもお答えいたしましたような姿勢で、再度精査をさせていただいて、対応してまいりたいこう思っておりますので、ご理解賜りますようによろしくお願いをいたしたいというふうに思います。

-----

議長（中西 康雄君）

前田議員。

12番（前田 正勝君）

まず、水道水については普段蛇口をひねれば水がいつでも出てくるということで、空気と同じような感覚でいて、水の有り難さが本当にわからずにいる。私もはじめそうなのですが、多くの皆さんがそんな気持ちだろうと思います。今回の岩手・宮城内陸地震のテレビでの報道では、最も身近なこのライフラインの1つである水道の施設が大きな被害を受けて、人間はもとより家畜、これは牛なんですが大変な、今日の報道ではペットもそうなんだそうですが、大変な状況に陥っているということを伝えております。

また、水については温暖化による気候等さまざまな現象による影響を受けて、国際的な危機に陥っているとも大きくNHKのテレビでも報道しておりました。これは温暖化による海面上昇による水危機、バングラディッシュ等のこの東南アジアのデルタ地帯が大きく影響を受けていて、またアメリカでは干ばつの被がいなんでしょうか、州議会の前で雨乞いをしている映像も映っておりました。車の洗車の禁止とか、テネシー州のある町では町長自ら水道栓の開閉を行っている、映像で大きくこの水の危機を報道しておりました。私は改めて大きく関心を持たなくてはいけないのだろうと思いました。

そこで、足元の大台町簡易水道統合計画検討書によると、水道の施設の現状と課題の中で、旧大台町の水道施設の現状が示されていますが、私は以前から懸念をしていましたが、旧大台町地域ですべての施設に問題があることを改めて深い認識をいたしました。この水道施設の現状と課題の中で、旧大台町地域の問題点、これを見るとすごいことになっておるとい話なんです、またそうなんです。また、過去に水道について経験のある人から、完全給水についての苦労話を聞いたことがあります。旧大台町地域での水道の現状を見るとき、財政的な面でここまで来たんだろうと考えておりますが、綺麗な水は人間はじめすべての生物の命の源と、改めて痛感しているところですが、以上のことを踏まえて町長の所見を伺いたいと思います。

議長（中西 康雄君）

尾上町長。

---

町長（尾上 武義君）

この大台地区の計画給水量に対してですね、超過率というのがございます。一つひとつ申し上げればですね、大滝の簡易水道で 169%の超過率です。それから上菅、菅合で 200%、もう倍なんですね。佐原が 102%、これが一番小さいんです。それから長ヶで 246%、川添で 132%、栃原新田で 153%、千代柳原が 338%、こういうようなことでいずれも計画給水量を大きく上回っていると、こういうことでございます。

旧宮川へ行きますと、全体で 86%という給水量と、ですので、まだまだ余裕があると、こういうようなことなんです、もう昔からそういう余裕がない状態で経過をしてきたた、こういうことでございます。

そういうことに起因してですね、一刻も早くその安全で安心なものを供給していく、そういう設備があるということで、今回着手をしていくということでございます。以前からも一般質問ございまして、この水道事業についてはやっていかななくてはならないと、そういうことで答弁をさせていただいておりました、今もそれ全然変わっておりませんし、これから変わってはならないことでもあらうと思っております。

そういうことでやってはいきますが、そのやり方ですね、これをどういうふうにしていくのかというようなことを再精査しながらですね、対応してまいりたいと、こう思っているところでございまして、その点ご理解いただきたいというふうに思います。以上です。

---

議長（中西 康雄君）

前田議員。

---

12 番（前田 正勝君）

町長、答弁されました。やっていくという話なんです、これは本当に大きな事業で、財政的にかなり先の見えん部分もあると私は思っております。しかし、水道水については旧大台町ではさきほども申したように、施設とか水源とか大きな問題を抱えてここまでできております。私前も申し上げたんですが、合併のときは旧大台町地域の人は皆さんが本当に綺麗な宮川の水を飲めるという話をしておりました。

この計画を見てもみると、悲しいかな川添地域、栃原、日進、それから千代柳原、ここは宮川の水は今後私もはじめそうなんです飲めないと、全くこう残念な思いをいたすんですが、一刻も早いこの水道水の完備をお願いしたいと思っておりますが、それこそ午前中の同僚議員のほうからも話がありました、借金、これは50%交付税で返ってくるという話なんです、あとはこの表の中に国庫の補助金というものがあるんですが、今の現在の国の財政状況を見て、果してこれがきちっと来るのかなという不安も持っております。

再度、町長にお聞きするんですが、この点と、この計画は何としても推し進めていくんだというお答えを聞きたいと思えます。

-----

議長（中西 康雄君）

尾上町長。

-----

町長（尾上 武義君）

この計画は進めてまいります。さきほども申し上げましたようにそのやり方ですね。水源をどこに求めるのか、あるいはどの程度の事業にするのか、いわゆる事業費の見直しというふうなことも含めてですね、将来にわたって憂いのない形に持っていかなあかん。こういうことでございます。

したがいまして、平成35年度までのいろんな事業が出てこようかと思いますが、そこら辺をあからさまにして掌握する中でですね、これぐらいの事業費が毎年度必要になるとか、ある年度で突出するとかいろんなことが出てくるだろうと思うんですが、そういう事業費等の精査、そしてまた一番大きな水道料金の問題とかいろんなことを、説明できる形にしていかなばならんと、こう思っているところでございます。

この事業を執行するうえで、財源になりますのが国の補助金なり起債と、こういうことになるわけです。国の補助金につきましては、今のですね簡易水道事業を統合していくとか、いろんな形でまとめていかなあかんということでもございまして、それをまとめたら補助金が付きますよと、こういうふうなことでもございます。それが今のところ 88 億円の事業の中で勘定すればですね、29 億円少しの補助金が付いてくる見込みと、こういうようなことなんです、もうこれとても実際にもう少し精査してですね、事業費を勘案したうえでやっていかならん、こういったことも、また後ほどお示しをできるんじゃないかなと、こう思っているところでございます。

何にいたしましても、生活の基本でございますので、この部分は進めさせていただきます。よろしくをお願いします。

-----

議長（中西 康雄君）

前田議員。

-----

12 番（前田 正勝君）

2 点目に入ります。

組合立協和中学校問題ですが、大台町・大紀町組合立協和中学校統合問題については、3 月の定例会でも伺いましたが、この統合問題については行政側と校区の皆さんの考え方に相違があり、私はいまだ平行線をたどっているように思いますが、今人口の少子化、高齢化がますます進む社会で、子どもたちの教育の面、小さな自治体の財政的な面、また人と人とのつながりの重要性が求められている今、統合問題の 1 日も早い円満な解決を望む 1 人として、現状を伺いたいと思います。

-----

議長（中西 康雄君）

教育長。

-----

教育長（谷口 忠夫君）

2 問目の協和中学校統合問題の現状についてのご質問に、お答えをいたします。

3 月大台町定例議会後の現状でございますが、日進地区の区長さんから区単位で懇談会の実施依頼がございまして、4 月 17 日から 4 月 27 日にかけて 7 箇所の区で実施をいたしました。今回は一昨年の 9 月以来、協和中学校の保護者の皆さんをはじめ、日進小学校や保育所の保護者の皆さん、また地域の皆さんと幾多の懇談をさせていただきましたので、その経過報告と両町教育委員会の教育方針等を説明し、地域の方々の統合に対するご意見をいただき、その集約を各区単位で取りまとめをお願いすべくお伺いをいたしました。区によって温度差もあり、意見集約は大変難しいと考えております。

しかし、教育委員会の統合に対する基本的な考え方といたしましては、少子高齢化が進む中、中学校の適正な規模の確保を目指し、中学生として集団の中で日常的に切磋琢磨して、多様な人間関係を築き、豊かな学力をもって社会の変化に柔軟に対応できる人材を育成するためには、一定の規模の学校が必要であるとの観点から、中学校は複数学級が適切であるとともに、生徒にとって最善の教育環境となることが望ましいとの考えから、平成 21 年 4 月の統合に向けて進めてまいりましたが、地域の方々の協和中学校に対する思いと、現在の全生徒数の推移から統合へのご理解を得られてない状況でございます。

また、校舎については耐震補強工事を済ませましたが、老朽化には変わりはなく、近い将来生徒数も減少傾向にあり、統合が望ましいと考えております。今後も引き続きこの統合問題については、地域の皆さんと継続して話し合いができるよう進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解をお願いし答弁とさせていただきます。

-----

議長（中西 康雄君）

前田議員。

-----

12 番（前田 正勝君）

さきほどの教育長の答弁は、私は教育長が答弁されることは、今のような状況だろうと予測はしておりました。協和中学校の組合立については、これは戦後 24 年に旧七保村・旧川添村で設立され、その後、昭和の町村合併で大台町・大宮町、そして現在大台町・大紀町組合立協和中学校が長い歴史の上にあります。この町史の中でありましたんですが、昭和 38 年には生徒数は 259 名とこう数字もあります。こういう時代もあったということです。いろいろな意味で改めて歴史の重みを感じます。

しかし今、大紀町教育委員会は平成 21 年 3 月で組合立を解散すると方向性が位置づけられております。大台町ではこの定例会でこのことに関連して組合規約の変更について、議案も上程されていますが、組合立解散については現実味を帯びていると私は認識をしております。これも前回は申しましたが、大紀町はすでに錦、柏崎、大内山地区の中学校統合が 21 年 4 月開校を目指し、着々と準備が進められていると聞いております。また統合については保護者の方の声が大きかったと聞きました。そこで今後、協和中学校の組合立が解散となったら、運営費とか、負担金が両町でこう出しているわけなんです、この財政面と、今在校している生徒の皆さんが解散後も在校を続けた場合、この子どもたちの身分とか立場はどうなるのか、伺いたいと思います。

-----

議長（中西 康雄君）

教育長。

-----

教育長（谷口 忠夫君）

ご質問にお答えいたします。

現在、協和中学校には 69 名の生徒さんがおります。そのうち大紀町の子どもが 13 人おりまして、そのうち 3 年生、現在の 3 年生が 10 名、2 年生が 2 名ですね。1 年生が 1 名でございます。合計 13 名の大紀町の子どもがおります。

それで、この 21 年 3 月に組合立が解消をいたしますと、21 年 3 月には 10 名の 3 年生は卒業をいたします。したがって、残る 3 名が在校生ということになるわけなんです、この 3 名につきましては組合立が解消いたしましたら、これは当然のごとくですね、大紀町の住民でございますので、大紀町の学校に移っていただくというふうなことになると思います。

そのことにつきましては、大紀町の教育委員会ももうすでにこの残る3名の方には伝達済みでございまして、理解を、了解を得ているというようなお話でございます。そういうことでございますので、3名の大紀町の生徒さんは解消いたしましたら、21年4月からは大紀町の学校に通っていただくというようなことでございます。以上でございます。

ちょっと経費の面につきましてはですね、ちょっと今資料がございませんので、申し訳ございませんが、また後ほどさせていただきます。

-----

議長（中西 康雄君）

前田議員。

-----

12番（前田 正勝君）

今まで日進地区の皆さんとは懇談もされて、平成18年にこう懇談されたわけなんです、いまだに考え方には変わりはないということなんです、この協和中学校については昭和25年にこう建築されたわけなんです、その後少しずつ増改築され、最近耐震補強工事がなされたということなんです、なされたとは言えですね、皆さんも見たらわかるんですが、この老朽化の校舎での子どもたちの教育の場としての環境については、私もそうなんです、大台町のこの住民の方や町外の人からも懸念される声も聞きます。あんなとこで教育させてええのかという話も聞きます。

この間の中学校の体育祭を見させていただいたんですが、そのときこう思ったんです。ここにこう協和中学校の生徒も一緒だったらいいのになと、こう素直な感じもいたしました。この問題については日進地区の皆さんとのコンセンサスをとることが一番大事なことであるんですが、まだ、あまり急ぎ過ぎてもいけないというこう考えの人もおいでるんですが、私はこれはどうかなと思うんですが、この問題本当に長いこう経緯があって、合併後職に就かれた現在の町長、教育長、そして新しく就任された副町長も、今後この問題に関わっていくことなんです、ご苦労はされると思うんですが、また少し酷を面もあるんじゃないかと、私そう思っております。日進地区の皆さんとの何とかこうコンセンサスを得て、解決の道筋を付けられないか教育長、改めてこう伺いたいんです。

そして、この協和中学校の問題が円満な解決がなければ、この大台町の一体感は私は生れてこない

んじゃないかと、常々思っております。その点も踏まえてご答弁願います。

議長（中西 康雄君）

教育長。

教育長（谷口 忠夫君）

ご質問にお答えいたします。

まず、校舎の件でございますけども、本年の2月に耐震工事を完了させました。しかし、老朽化には先にも述べましたように、老朽化には対応いたしておりません。耐震につきましては何とか基準をクリアすることで工事は済ませましたんですが、老朽化と言いましても確かに耐震工事で壁の外したものは張り替えましたし、土台等につきましてもですね、相当部分入れ替えましたんで、見た目は確かに、見た目もですね、何かこう新しいというのですか、見具合は良くはなりました。

しかし、屋根の構造部分なんかは全くそのままでございますし、それよりもですね、やっぱり子どもたちにとりまして古いその昭和の25年と議員おっしゃいましたが、その辺の建築でございますので、現在の学校として比べますと、非常に機能的に劣るというようなことで、例えば大台中学校、宮川中学校等の校舎と比べますと、非常に各特別教室とか、そういったものにつきましてもですね、非常にこう見劣りをするというようなことがございます。

そうしたことで私どもは、この際、この改築ができないというようなことで、何とか統合を大台中学校へ統合していただきたいというようなことで、お願いをしてきたわけでございます。

でまた、これまで何回かこう地区に出まして、懇談もさせていただいてきましたが、そういった懇談の中でですね、やっぱり根強い反対の意見というのは、やっぱりその日進地区から中学校がなくなるということは、地域の発展に幅害すると、こういうことがですね、大きなその理由でございました。そういったことでですね、何とか生徒の推移も今の状態では、まだそんなにすぐに統合するような生徒数ではないやないかというようなことで、そないに急がんでもええんやないかというようなお話もいただきました。

そして中にはですね、将来はやはり統合も必要であろうと、減少していく子どもを考えると、将来

はやっぱり統合も必要ではないかというような前向きな意見もいただきました。そういったことで懇談を始めた当初に比べますと、相当ですね、統合についての理解も多少は得られてきたんではないかというふうに今は思っております。

そして、今後でございますけども、今回の解消しましたら、21年3月に解消いたしましたら、統合をお願いしたいということで進めてまいったんですけども、解消のほうはほぼご理解をいただいたというふうに思っておりますが、統合のほうにつきましてはですね、これはなかなかコンセンサスを得るところまで行っておりませんので、このことについてはですね、21年4月の統合というのは非常に困難ではないかというふうに思っております。

したがって、今後ともですね、地域の皆さんと私どもは統合についてお願いをしたい気持ちはこれは変わっておりませんので、今後地域の皆さん方とですね、いろいろの皆さん方と話し合いを進めていきたい。このようにご理解を得ていきたいというふうに考えております。

また、その一体感ということでございますけども、このことは私もですね、地区の懇談会でも何遍も申し上げました。と申しますのは、私は旧宮川地区で宮川中学校の統合について携わったことがありまして、その体験からですね、それまでやはり宮川の場合、各校に3つの中学校があったんですけども、その3つの中学校がある時分にですね、いろいろ地域の間では、何と言うんですか、地域のその思い入れというのか、地域の根性というのですかね、そういったものが非常にやっぱりありました。

そしてこの宮川中学校が1つになりまして、宮川地区の中学校3つが1つになりまして、宮川中学校というようなことになりまして、保護者も1つの活動をするようになりましてですね、本当にこれは私もびっくりしたんですけども、それまで非常にこう地域性のいろいろ強い意見があったんですが、その時点からですね、本当にこう見違えるような地域一体感というのですか、宮川地区の各地区の3地区の一体感が生れてきました。それには私もびっくりをしておるんですけども、そういった経験もありましたので、そのことも皆さんに聞いていただくべくお話をさせていただいてきましたんですが、まだまん今いち理解を得られなかったというようなことございまして、やはりこの学校の統合はですね、議員おっしゃるような非常に一体感を醸成するには、確かに有効なことだというふうに私自身も思っております。

今後、地域の皆さん方としっかりお話を進めさせていただきましてですね、何とかご理解得るような方法で、今後この話は継続をさせていきたいなというふうに思っております。以上でございます。

-----

議長（中西 康雄君）

これで前田議員の一般質問が終了しました。

---

議長（中西 康雄君）

しばらく休憩します。

再開は1時45分といたします。

（午後 1時 35分）

---

議長（中西 康雄君）

定刻となりましたので、休憩前に引き続き一般質問を再開いたします。

（午後 1時 45分）